

# 鼻アレルギーに対するMS-Aアンチゲンの ネブライザー療法

豊川総合病院 耳鼻咽喉科

西前忠英, 中西理恵子

## I はじめに

近年, 耳鼻咽喉科外来を受診する鼻アレルギーの患者の数は, 年々増加する傾向にある。その治療にあたっては, 原因抗原の除去とともに, 原因抗原による特異的減感作療法を行うことが望ましいが, 抗原の検出が困難な症例や特異的感作療法の施行できない症例も少なくない。

一方, 非特異的減感作療法の一つであるMS-A antigen (以下MS-Aと略す)は, 抗原不明例でも適応となりうることから, その注射療法が従来より使用され, 臨床上有効であることは既に数多く報告されている。今回我々は, MS-Aのネブライザー療法を施行し, 若干の知見を得たので報告する。

## II 対象

昭和61年5月から9月の間に, 当科外来を受診した鼻アレルギー患者21例を対象とした(第1表)。

## III 投与方法

MS-A40mgを1mlの蒸留水に溶解し, その全量をジェットネブライザーにて鼻腔内に噴霧した。投与間隔は連日合計15回(600mg)を1クールとした。

## IV 観察項目

鼻症状は, くしゃみ発作, 鼻汁, 鼻閉, 嗅覚異常の4項目について行ない, 鼻粘膜所見は, 下甲介粘膜の腫脹, 色調, 水性分泌, 鼻汁の性状, 鼻汁中好酸球数の5項目について観察し, それぞれ奥田の基準によって評価した。さらに一般検査として血液検査, 肝機能検査, 尿検査

第1表 背景因子

性別	男女	10 11
年齢	～ 9	1
	10 ～ 19	10
	20 ～ 29	2
	30 ～ 39	4
	40 ～	4
病型	くしゃみ・鼻汁	10
	くしゃみ・鼻閉	10
	鼻閉	1
抗原名	ハウスダスト	19
	カモガヤ	1
	アルテルナリア	1
重症度	重症	2
	中等	11
	軽症	8
罹病期間	1年未満	5
	1年以上～5年未満	12
	5年以上	4

を治療開始前および投与終了時に行なった。

## V 成績

症状別効果をみると(第2表), 自覚症状ではくしゃみ発作の消失8例, 著明改善2例, 改善5例で, 改善率は71.4%であった。鼻汁では消失7例, 改善6例で, 改善率は62%で, 鼻閉では消失が12例, 著明改善, 改善がそれぞれ2例で, 改善率は76%であった。嗅覚異常は消失5例, 改善3例で, 改善率は66.6%であった。

第2表 症状別改善効果

症 状		消失	著明改善	改善	不変	悪化	改善率(%) (改善以上)
自覚症状	くしゃみ発作	8	2	5	6	0	71.4
	鼻 汁	7	0	6	8	0	62.0
	鼻 閉	12	2	2	5	0	76.0
	嗅 覚 異 常	5	0	3	4	0	66.6
他覚的所見	下甲介の腫脹	9	1	5	6	0	71.4
	下甲介の色調	5	1	5	10	0	52.4
	水性分泌	9	0	3	9	0	57.1
	鼻汁の性状	8	1	4	8	0	62.0
	鼻汁中好酸球	4	1	4	8	0	53.0

他覚的所見では下甲介粘膜の腫脹が消失9例、著明改善1例、改善5例で、改善率71.4%であった。下甲介粘膜の色調は消失5例、著明改善1例、改善5例で、改善率は52.4%、水性分泌物の量は消失9例、改善3例で、改善率57.1%、鼻汁の性状は消失8例、著明改善1例、改善4例で、改善率は62%、鼻汁中好酸球数は消失4例、著明改善1例、改善4例で、改善率は53%であった。

一般検査(血液検査、肝機能検査、尿検査)では投与前後において、全例に異常所見を認めなかった。

#### VI 効果判定

自覚症状および他覚的所見の改善度に、副作用を考慮して、著効、有効、やや有効、無効、悪化の5段階で評価した総合効果(第3表)は、著効3例(14.3%)、有効9例(42.9%)、やや有

第3表 総合効果

著 効	有 効	やや有効	無 効	有効率 (有効以上)
3 (14.3%)	9 (42.9%)	5 (23.8%)	4 (19.0%)	12 (57.2%)

効5例(23.8%)、無効4例(19.0%)で有効以上を有効率とすると57.2%であった。

#### VII 考 察

MS-Aは、アレルギー性疾患患者の尿より発見された抗アレルギー性ポリペプチドで、作用機序としては、chemical mediatorの枯渇作用とblocking Antibodyの産生増加が考えられている。その注射療法が臨床上有用であることは数多く報告されているが、注射時の疼痛の問題もあり、特に小児に対しては負荷が大きいと思われる。一方、ネブライザー療法は、疼痛

もなく、手軽に小児への使用が可能であり、しかもアレルギー反応の起っている鼻粘膜に直接作用するために、効果の発現が早くなることが期待される。今回の対象21例中の結果では、三大症状のうち鼻閉に対する効果が特にすぐれており、他覚的所見の下甲介粘膜の腫脹に対する改善率71.4%という結果が得られたことにより、今回はまだ症例も少なく、更に検討する必要はあるが、従来の治療では効果の少ない鼻閉に関しても、ネブライザー療法は有効であると思われる。

以上のようにネブライザー療法は、今後さらに投与量、投与間隔などの十分な検討が必要と

思われるが、副作用がなく、局所の疼痛もなく、小児にも手軽に使用でき、注射療法に匹敵する有効率を得ることができることから、鼻アレルギーの治療に有用な方法の一つと考えられる。

## Ⅷ まとめ

鼻アレルギー患者21例を対象にMS-A 40mgを1 mlの蒸留水に溶かし、ジェットネブライザーにて治療を行ない、次の結果を得た。

(1) 総合効果では著効3例、有効9例、やや有効5例、無効4例で有効以上の有効率は57.2%であった。

(2) 自覚症状の改善率は、くしゃみ発作71.4%、鼻汁62%、鼻閉76%であった。

(3) 他覚的所見の改善率は、下甲介粘膜の腫脹71.4%、色調52.4%、水性分泌57.1%、鼻汁の性状62%、鼻汁中好酸球数53%であった。

(4) 副作用は認められなかった。